

安価な海外産品に押されるなど苦境にある繊維業界の中にあつて、福山市芦田町福田の撚糸加工工業「備後撚糸」が水分を含んだ和紙をより合わせて糸にする「水撚り製法」を開発し、関係者の注目を集めている。独自の技術を基に様々な商品へと用途の幅を広げる同社の光成猛社長(65)に、和紙糸の製法にたどり着いた経緯や新商品開発にかける意気込みを聞いた。

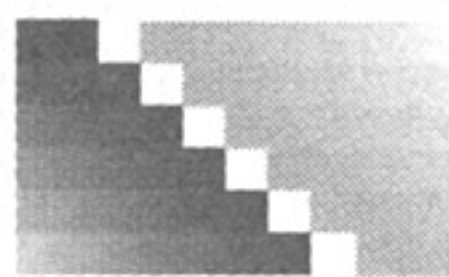
(松尾俊二)

— 新たな糸の製法に取り組んだ理由は

繊維業界はバブル崩壊後の92、93年から悪くなった。仕事量が減り、価格が下がるなど十数年間マインナスが続いている。60年代から70年代にかけては300社を超えていた県内の撚糸業者も二十数社に激減した。当社は紡績会社や商社から注文を受けて撚糸の仕事をしていたが、生産拠点を中国に移して受注が減った。4億円あった売上高は半分以下に減少し、生き残るために技術開発に取り組んだ。

— 和紙で糸を作ることになったのはなぜですか

## Key Person



### 備後撚糸社長 光成猛さん(65)

商社から手提げ紙袋の取っ手の部分の注文を受けたのがきっかけで、和紙を原料に糸を作ることになった。ところが、和紙をよっても切れやすかったり、太さにムラができたりした。スプレーで水を吹きつけたり、ロウやワックスで滑りを良くしたりして試行錯誤を

繰り返したが、思うように糸ができなかった。

— 開発の糸口は

あきらめる寸前に思い切って和紙を水に浸してみると、太さが整った。川崎撚糸(福山市神辺町)の協力で、水分を含む細いテープ状の和紙に合わせて撚糸機の回転速度を調整するなど、約1年半がかりで強度のある均一のとれた和紙糸の製法を開発し、特許を得た。和紙は水に弱いのでなく、水によって生き返るといふ逆転の発想を学んだ。

— 和紙糸の特徴は

軽く、通気性、吸水性、吸汗性

## 和紙糸で広げる商機

にも優れる。丸みがあって滑らかで肌触りも良い。天然繊維なので焼却でき、地中分解され、環境に優しい。

— 商品開発に力を入れている

地元のデニム製造会社と共同で和紙糸を使ったジーンズ生地を作った。軽くて肌触りが良く、はきこむほど柔らかくなる。小売価格は3万〜4万円だが、愛好者から好評を得ている。

オリジナルブランドも立ち上げた。京都の染織デザイナーの協力を得てバッグ、ショールなどの商品を開発しているが、百貨店や呉服店から引き合いがきている。今後は農業やスポーツ用のネット、肌着などの分野にも広げたい。

〈メモ〉岡山県倉敷市玉島出身。製鉄会社勤務などを経て1968年に入社。93年から現職。

備後撚糸は光成猛社長の叔父で、広島県撚糸工業組合の初代理事長を務めた故・光成源一さんが27年に創業。63年4月に株式会社化した。資本金2500万円。従業員数18人。07年3月期の売上高は1億8100万円。ホームページは<http://www.binnen.co.jp>

